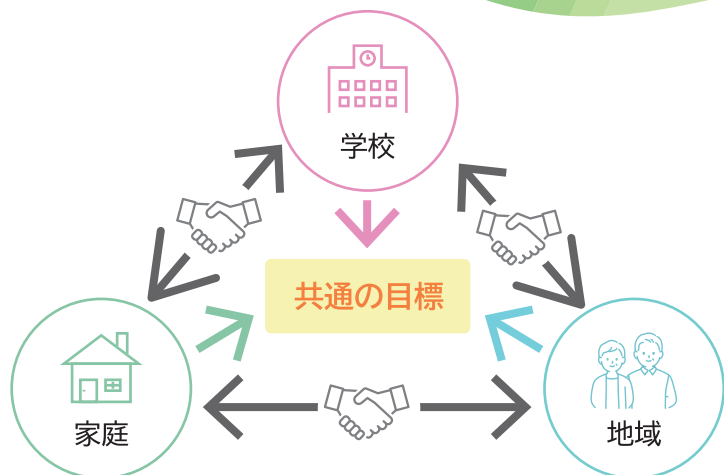


地域とともに歩む学校づくり

学校を核とした地域コミュニティの創設



学校・家庭・地域の連携

学校と地域が パートナーとなる

町では「次代へつなぐ人づくり、地域づくり」を目標に位置付け、特に学校教育においては、「東庄に誇りを持ち、夢を抱きながら、未来を切り拓く児童生徒の育成」を教育目標とし、「子どもたちが笑顔にあふれ、地域を知り、地域に触れ・学び、地域を語れるよう」学校・家庭・地域が一体となった教育を推進しています。

教育課 学校教育係 ☎86-2311

現状

令和2年4月に、5校あった小学校が1校に統合され東庄小学校が誕生しました。町教育委員会は、1小1中の連携など9年間を見据えた教育を進めています。

統合から3年が経過し、5校あったときに比べ地域とのつながりが希薄化したことがわかってきました。新型コロナウイルスのまん延による外部の人の学校行事への参加の減少や、スクールバスの導入などにより地域住民による見守りの減少など理由はさまざまです。また、子どもたちの地域での体験の機会が減少していることも課題となっています。

学校と地域住民・家庭が連携し子どもたちを育てる

現行の学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」の実現が学校に求められるようになっていきます。この取組を進めるには、学校と地域住民・家庭が連携し一体となり「地域でどのような子どもたちを育てるのか」「何を実現していくのか」という目標やビジョンを共有することが必要です。

連携による効果

子どもたちにとって

- ・学校だけでは実現できない豊かで多様な体験や学びが充実する
- ・多くの人とかかわることにより、夢と希望を持つことができる
- ・地域の担い手としての自覚が高まる

教職員にとって

- ・地域住民の理解と協力を得た学校運営が実現する
- ・地域住民の協力により、教育活動の充実と子どもと向き合う時間の確保につながる

保護者にとって

- ・学校や地域に対する理解が深まる
- ・地域の中で子どもたちが育てられている安心感がある

地域住民にとって

- ・経験を生かすことで、子どもや地域の役にたっているという充実感につながる
- ・学校を通して多くの人と交流することができる

地域とのかかわり

東庄小学校 田植え体験



稲作作りを体験

5月10日(水)、5年生を対象に田植え体験が行われました。

ボランティアとして、農業委員の押山さん、向後さんが直接指導しました。児童たちは、水を張った校庭内の田んぼに入り、苗を丁寧に植えました。収穫は9月中旬で、収穫した米をおにぎりで試食予定とのことです。

地域のボランティアの声



農業委員 押山長司さん
農業委員 向後友秋さん

田んぼで足を取られる体験は、やってみないとわかりません。良い経験だと思います。

今年で授業は2回目です。このような機会がもっと増えれば良いですね。

児童の声



高橋宗之介さん 大網勇翔さん

家でも手伝いたいです！

初めて植えました！良い体験ができました。

学校運営協議会を開催

5月2日(火)、第1回東庄町学校運営協議会を町役場で開催しました。会議では、今後の学校運営と地域とのかかわりを期待する声が多く上がりました。

学校運営協議会とは

学校と地域住民、家庭が力を合わせて学校の経営にあたることのできる制度です。この制度は、「地域とともに歩む学校づくり」への転換につながる仕組みであり、今後町立の小中が地域と一体となった特色ある学校づくりを進めていくことができます。

今後期待される取り組み

- ・登下校・通学路の見守りボランティア
- ・学校内でのボランティア
- 例：家庭科ミシン補助・校庭の草刈り・枝切りなど
- ・地域の伝統芸能の継承 など

ボランティア募集

学校支援ボランティアにご興味のある方は、ご連絡ください。

教育課 生涯学習係 ☎86-1221

町での生活がかげがえのない教材になるはず

学校運営協議会
市野 敬介会長

会長に就任しましたキャリア教育コーディネーターの市野と申します。小学校や中学校を核とした地域づくりを実現するためのお手伝いできれば幸いです。

町の産業や自然環境、歴史や伝統・文化などが学校教育・家庭教育・地域教育と、円滑に結びつく機会と一緒に作りたいと考えています。何度か町に足を運んで感じたのは、町民のみなさまがこの町で生活していることそのものが、児童・生徒にとってのかけがえのない教材となるのではないかということ。みなさまのお力添えが必要です。ぜひ、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



いちの けいすけ
市野 敬介

NPO 法人企業教育
研究会所属。長岡造
形大学 非常勤講師
(論理学) など。